



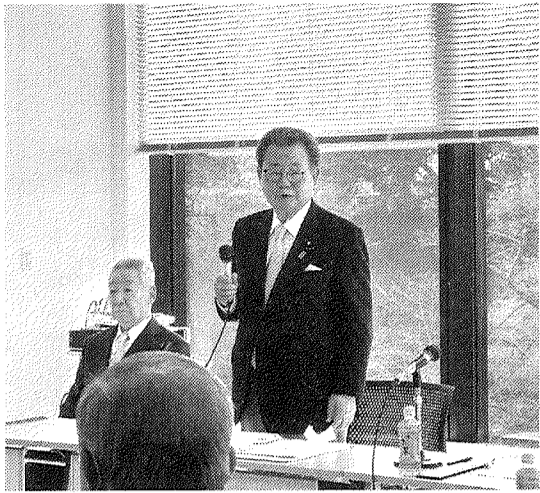
令和5年2月15日
第866号

一般財団法人日本遺族会
〒050-0001 東京都千代田区
九段南一丁目六番五号
九段会館テラス四階
電話 03-3261-5521
振替 00160-6-25389
編集 盛川英治
毎月1回15日発行
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

活動方針・事業計画決定 組織継承・青年部育成・拡大が主軸

1月26日、常務理事会が開催され、昨年11月に了承された組織継承策「戦後80年に向けた組織継承3カ年計画」と青年部育成・拡大の具体策を令和5年度活動方針・事業計画の柱とすることが決定された。これに先立ち青年部長・事務局長・女性部長の各会議にも提案され、了承された。



常務理事会で挨拶する水落会長
=1月26日、九段会館テラスの本会会議室で

今回の常務理事会の最大の審議事項は、2月に予定される理事会に提出する令和5年度活動方針・事業計画であった。遺族会活動の根幹は、英霊顕彰と戦没者遺族の処遇改善であるが、組織の継承が喫緊にして最大の懸案として、活動方針・事業計画ともに初めて組織強化が第一項目に掲げられた。

青年部へ確実に組織を継承するための「戦後80年に向けた組織継承3カ年計画」と青年部育成・拡大の具体策(3面別掲)を中心とし、この方策に沿った新規会員獲得、本部・各都道府県支部との連携強化等について話し合われた。

常務理事会に先立ち行われた青年部長会・事務局長会・女性部長会の各会議では様々な意見が

戦没者遺族の皆さまへ 特別弔慰金の請求期限が近づいています 令和5年3月31日(金)までにご請求ください。

支給対象となる方
令和2年4月1日(基準日)において、「恩給法による公務扶助料」や「戦傷病者戦没者遺族等援護法による遺族年金」等を受ける方(戦没者等の妻や父母)がいない場合に、次の順番による先順位のご遺族お一人に特別弔慰金が支給されます。

■戦没者等の死亡当時のご遺族で

- 1 令和2年4月1日までに戦傷病者戦没者遺族等援護法による弔慰金の受給権を取得した方
- 2 戦没者等の子
- 3 戦没者等の①父母 ②孫 ③祖父母 ④兄弟姉妹
※戦没者等の死亡当時、生計関係を有していること等の要件を満たしているかどうかにより、順番が入れ替わります。
- 4 上記1から3以外の戦没者等の三親等内の親族(甥、姪等)
※戦没者等の死亡時まで引き続き1年以上の生計関係を有していた方に限ります。
※請求手続きの簡素化のため「同意書」が廃止されたので、同順位の方が複数いる場合は、話し合いのうえ、代表して請求する方を決めてください。

支給内容 額面25万円、5年償還の記名国債
請求窓口 お住まいの市区町村の援護担当課
詳しくは、お住まいの都道府県・市区町村の援護担当課にお問い合わせください。

が一体となって取り組むことである。本部も青年部へハートを繋ぐため、現在の組織の中核である遺児・女性部等が一丸となって青年部を支えるシステムを構築するよう促す。この他、英霊顕彰・処遇改善運動の経過並びに今後の活動方針・事業計画について、具体的な日程内容については、継続審議となった。

また、事務局長・女性部長会では任期満了に伴う役員改選が行われた。新役員は次の通り。

事務局長	山田 周二 (宮城県)
幹事	稲 寿 (栃木県)
幹事	野間 征子 (大阪府)
幹事	田淵 由紀 (鳥取県)
幹事	同 渥美 輝夫 (長崎県)
女性部役員	伊藤 早苗 (三重県)
副部長	田中 玉喜 (福岡県)
同	大場 盛子 (福岡県)
同	飯高 昌子 (神奈川県)
同	山岸由紀子 (石川県)
同	同 順子 (徳島県)
同	小野 幸子 (大分県)

この他、英霊顕彰や処遇改善運動の経過並びに今後の活動方針・事業計画について、具体的な日程内容については、継続審議となった。

また、事務局長・女性部長会では任期満了に伴う役員改選が行われた。新役員は次の通り。

相次いで開催

日本遺族会は、1月22日から25日にかけて青年部長会、事務局長会、女性部長会及び各幹事会を開催した。英霊顕彰、処遇改善運動の経過・今後の活動方針・事業計画(案)及び収支予算(案)の審議及び意見聴取後、

「青壮年部25年のあゆみ」には昭和35年12月に戦没者の遺児で結成された青年部の歴史である。前文に「幼い時に父を戦争で失って、早や40年余。戦後世代が6割を占める様になり(中略)目前に21世紀に向け新たな対応が求められる。全国の遺族会は、組織の高齢化を迎え、青壮年部による継承、発展をはかる」としている。青壮年部結成25周年は、これからの遺族会をスタートさせる年ではないと決意が記されている。▼コロナ禍で部会活動が停滞していた青年部は、2年ぶりに研修会を開催し、北海道から鹿児島まで21人の青年部員が参集した。研修、視察などを通して、戦争の悲惨さと平和の尊さを語り継ぐ遺族会活動の意義を学ぶことを目的としていたが、本研修会の最大の実りは普段は忙しく語り合えない青年部員各自が交流を重ねる中でゆるやかな絆を育みつつあることだと報告を受けた。平和な社会に生まれた青年部ならではの経験や秘めた熱い思いを垣間見ることが出来たという。

声なき声

「青年部結成5年、鉄は熱いうちに打て」と云う。3年で組織を継承するために努力するのは青年部だけではありませんが、組織が一丸となって青年部を支えるべく、努力を重ねて参りましょう。(M)

日本遺族通信 年間定期購読のお知らせ

毎月、お手元までお届けする年間定期購読です。戦没者の英霊顕彰(遺骨帰還、慰霊友好、慰霊巡拝)、遺族の処遇改善等々の遺族関係の情報を掲載しておりますので、是非、この機会にお申し込みください。次世代を担う青年部(孫・ひ孫)の皆様も是非お申し込みを。

年間購読料/1,560円(1年間 12回 税金・送料込)
お申込み→日本遺族会事務局 ☎03-3261-5521
FAX03-3261-9191

青年部研修会を開催

組織の在り方や拡充策を学ぶ

日本遺族会は、1月28日から30日にかけて、鹿児島県において青年部研修会を開催し、全国から戦没者の孫、甥等21人が参加した。2年ぶりの研修会では、組織継承、青年部育成拡大の具体策を学ぶと共に、各地域の青年部活動等の情報交換をしながら県内の資料館や戦跡、慰霊碑等を巡り、戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぐ思いを新たにしました。

コロナ禍により2年ぶりの開催となった青年部研修会の結団式は1月28日午後、鹿児島県護国神社にて行われた。

挨拶に立った水落会長は研修会の目的について、「ロシアのウクライナ侵攻をはじめ、世界平和が脅かされる今、恒久平和を希求する遺族会活動が求められている。研修会を通して、組織継承・青年部育成拡大策を学ぶと共に、交流を図る中で、遺族会の意義を再認識し、地元での活動に活か

してほしい」と述べた。続いて、青年部を代表し坂本元(北海道)副部長が挨拶、次いで開催に尽力いただいた鹿児島県遺族連合会の植松副会長、浜崎常務理事・事務局長を紹介し、植松副会長より挨拶をいただいた。その後、護国神社で昇殿参拝を行い、市内のホテルに移動後、「戦後80年に向けた組織継承3カ年計画と青年部育成・拡大の具体策」について研修会を行った。

29日は、薩摩半島の南に位置する知覧特攻平和会館の視察及び語り部の講話を受け、戦争の記憶を語り継ぐ意義を学んだ。そして、指宿市へ移動し、開聞岳西側麓にある花瀬望比公園内の比島戦没者慰霊碑、次いで、指宿市東方の田良浜にある指宿海軍航空基地跡の哀惜の碑を訪れ、それぞれ黙祷し、花を手向けるなど御霊の冥福を祈った。

本研修会では、より多くの意見交換を図るため、事前に討議テーマを通知し、バスの移動時間も利用して、活発な意見発表が行われた。日頃交流の少ない青年部員各自が、2泊3日の間の研修会をはじめ慰霊追悼・平和会館や戦跡等の視察はもとより移動や食事時間を通じて懇親を深めたこと、地元への取組み、課題について、率直な意見が交わされ、有意義な研修となった。

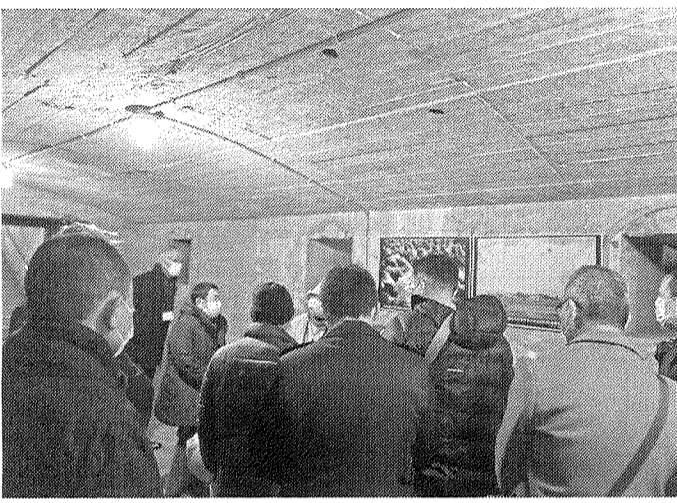
なお本研修会の内容を共有すべく、今後報告書を作成し、参加者や各都道府県事務局及び青年部長に送付する予定である。

また、ウエワク周辺では墜落機に関する調査及びブレンディ埋葬地の聞き取り調査等を実施した。さらに、同国立博物館及び各州政府と遺骨安置場所の確保等や今後の派遣に伴う医療体制や治安状況等を調査した。

また、ウエワク周辺では墜落機に関する調査及びブレンディ埋葬地の聞き取り調査等を実施した。さらに、同国立博物館及び各州政府と遺骨安置場所の確保等や今後の派遣に伴う医療体制や治安状況等を調査した。



知覧特攻平和会館内で語り部講話 = 1月29日、川床剛士氏より話を聞く



鹿屋地下壕第一電信室でガイドの説明に耳をかたむける = 1月30日

遺骨収集事業

現地調査を実施

ビスマーク・東部ニューギニア

日本戦没者遺骨収集推進協会は、1月から2月にかけてビスマーク諸島、東部ニューギニアの2地域へ現地調査団を派遣した。

本会からは、それぞれの地域に各1人が参加協力した。

また、ビスマーク諸島、ビスマーク・ソロモン諸島現地調査派遣第2次

は、1月15日から25日の11日間、ニューブリテン島西ニューブリテン州ホスキンスの同州博物館に仮安置されている遺骨の鑑定を実施した。日本人戦没者である蓋然性が高いと判断した遺骨を州博物館に安置し、今後検体を送還する。

また、ホスキンスにおける医療設備等の調査を行った。

また、ホスキンスにおける医療設備等の調査を行った。

また、ホスキンスにおける医療設備等の調査を行った。

また、ホスキンスにおける医療設備等の調査を行った。

また、ホスキンスにおける医療設備等の調査を行った。

また、ホスキンスにおける医療設備等の調査を行った。

また、ホスキンスにおける医療設備等の調査を行った。

また、ホスキンスにおける医療設備等の調査を行った。



指宿花瀬望比公園内慰霊碑前で追悼式後ガイドより説明を聞く = 1月29日

パラオで調査を実施

海外民間建立慰霊碑移設等事業

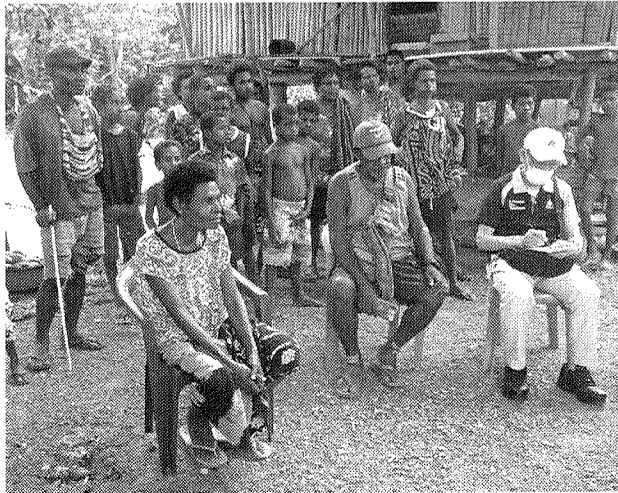
本会が厚生労働省より委託を受けて実施している「海外民間建立慰霊碑移設等事業」で、1月31日から2月7日の期間でパラオ諸島に2人を派遣した。コロナ禍で海外への渡航が制限されていた中、約3年振りの海外派遣となった。

2月1日、派遣団はコロール島で在パラオ日本国大使館を表敬訪問し、折笠弘雅大使に、民間団体が建立した慰霊碑の維持管理状況を調査し、移設・埋設等を行う本事業の目的等について説明した。

また、折笠大使から紹介されたペリリュー州とアンガウル州選出の下院議員、そして両州政府の知事も面会し、今回の調査に対して全面的に協力するとの回答を得た。ペリリュー島では、ペ



移設され適切に維持管理されている慰霊碑 = 2月4日、アンガウル島で



東セビック州ブレンディ埋葬地に関する聞き取り調査 = 東部ニューギニア東セビック州で

一般財団法人 日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、英霊顕彰や遺族支援など様々な活動のために賛助金を募っております。本会は、これまで英霊の顕彰並びに戦没者遺族の福祉増進をはかるため、日々活動を行ってきたところでございますが、東日本大震災により収益部門であった九段会館が閉館したことに伴い、現在、慰霊友好親善事業をはじめ遺骨収集帰還等各種事業の継続が大変厳しい状況にあります。本会といたしましては、各種事業を行うにあたり、今後とも努力していくことは勿論のことですが、戦没者ご遺族並びに本紙ご購読者、本会の諸事業にご賛同される皆様方より一層のご支援・ご協力を仰がなければなりません。

本会の活動の趣旨にご理解を賜り、何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。大変恐縮ですが、ご賛同いただいた方の氏名を本紙に掲載し、お礼に代えさせていただきます。

賛助金のお振込みは
 ●郵便振替 00130-2-694929
 ●みずほ銀行 九段支店 普通預金 0980930
 口座名はいずれも「一般財団法人日本遺族会：ザイニホンイソクカイ」
 ※ご不明な点は本会事務局(電話03-3261-5521)までお問い合わせ願います

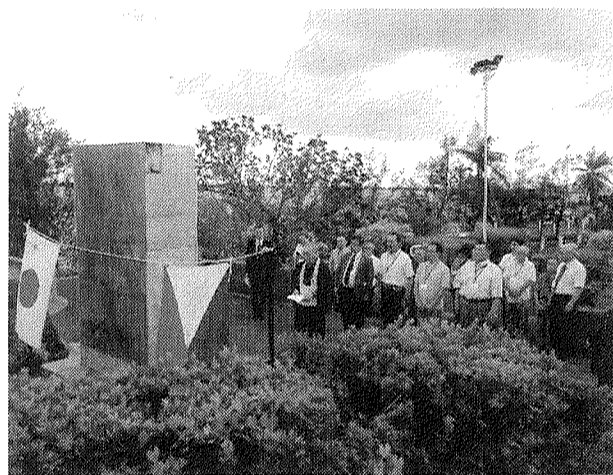
戦後30年に向けた組織継承 3カ年計画・青年部育成・ 拡大の具体策の詳細

遺族会組織の最大の懸案である組織継承の具体策「戦後30年に向けた組織継承3カ年計画」は前号で一報した通りである。今号では後継者である青年部の育成・拡大の具体策の概要を伝える。なお、この組織継承策・青年部育成・拡大策は、令和5年度から活動方針・事業計画の核となることが常務理事会で了承された(一面参照)

○青年部育成・拡大の具体策
 遺族会組織は、結成当初から戦後30年に向けた組織継承の懸案である。戦後30年に向けた組織継承3カ年計画は前号で一報した通りである。今号では後継者である青年部の育成・拡大の具体策の概要を伝える。なお、この組織継承策・青年部育成・拡大策は、令和5年度から活動方針・事業計画の核となることが常務理事会で了承された(一面参照)

のりをしのご難しい取り組みとなる。推測される。すなわち、戦争を知らない世代に、戦争を知らない青年部が「戦争と平和」を語る難しさである。青年部を育成し、組織

を拡大させるためには、青年部各自が、遺族会活動の意義を理解し、活動の必要性を感じる必要がある。青年部が育成し、組織



青年部が主体となって企画したフィリピン慰霊巡拝を実施し、慰霊祭を経験するなど青年部として初めての慰霊事業=令和2年1月

そこで、提案された青年部育成・拡大の具体策は次の通りである。
 ①見る・聞く・体験する場の提供(百聞は一見に如かず作戦)
 まずは、遺族会活動に参画したいと思わせる「心揺さぶられる体験」をしてもらうことが重要である。

○遺児慰霊友好親善事業
 業付添や遺骨収集事業等への参加促進

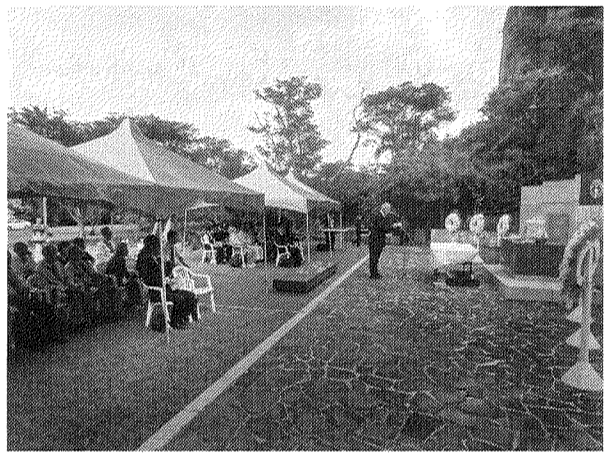
青年部の付添者を促進する意味は、遺児と共に戦没者のゆかりの地を巡り、慰霊追悼する中で、戦没者の苦辛に加え、これまで語られることのない

申込後、振込用紙を送付するので、振込手数料は本人負担をお願いする。記念誌の発送は、入金確認後となるので了承を。 賛同者名(敬称略・カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等) 池本強、浜崎和則、野口忠實、高田郁子、コガトシロウ(以上、1月1日から1月末日まで)

3年ぶりに事業再開

遺児慰霊友好親善事業

日本遺族会では厚生労働省から補助を受けて実施している「戦没者の遺児による慰霊友好親善事業」を3年ぶりに実施する方向で進めている。同事業は、新型コロナウイルス感染症拡大により令和2年2月中旬以降実施されていない。国が基本的な感染対策を取りながら行動制限を緩和し、海外においても同様の状況となり、出入国に関する規制等も緩和された。そこで、既に政府主催の遺骨収集事業等が実施されている医療体制が充実しているマリアナ諸島及び台湾・パシフィック地域で実施する予定である。



サイパン島マツビの中部太平洋戦没者の碑で全戦没者追悼式を挙げる=令和元年11月

実施三十周年記念誌頒布

日本遺族会では、戦没者遺児による慰霊友好親善事業が、実施30年を迎えたことを記念し、同事業実施三十周年記念誌を頒布し、300冊限定で頒布している。同記念誌は、戦没者遺児の積年の願いであった「父への慰霊」と現地の「友好親善」を記録するにとどまらず、「二度と戦争の惨禍を繰り返さないため」に、戦争の悲惨さ、平和の尊さを語り継ぎ、世界の恒久平和に寄与する思いを広く次世代へ語り継ぐ内容となっている。ご好評により、申し込みはお早めに。

▼頒布価格
 1部 3千500円(消費税、送料込み)
 ※2部以上購入の場合送料分割引あり。
 ▼申込方法
 葉書またはファックスで、左記の申込先に必要事項を必ず記入のうえ、申込を。なお、電話による申込は受けていないのでご注意ください。
 ▼申込先
 〒102-0074
 東京都千代田区九段南1-6-5 九段会館テラス4階 日本遺族会「慰霊友好親善事業・実施三十周年記念誌」係
 ファックス・03-3261-5521

本会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申し上げます。なお、お礼申しあける。ない場合があるため、省略

本会事業参加者の皆様へ

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報(「個人情報保護法」の定め)を「個人情報保護法」の定めに基づき、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましては、ホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

日本遺族通信への広告掲載を募集しています

日本遺族通信では、現在広告を掲載していただける広告主様を募集しております。日本遺族通信は発行部数約10万部で、全国の戦没者遺族を中心に訴求効果の期待出来る広告媒体です。是非ご利用ください。

- ①発行日：毎月1回 15日発行
 - ②体裁：タブロイド版の4頁
 - ③発行部数：約10万部
 - ④主な購読者：全国の戦没者遺族
- 料金 1回・記事下2段 (24.0cm×7.2cm) 86,400円+消費税
 ・記事下2段2/1 (11.9cm×7.2cm) 52,200円+消費税
 ※料金については応相談いたします。

●問合せ先 ● 日本遺族会事務局 事業担当まで
 ☎03-3261-5521 FAX03-3261-9191

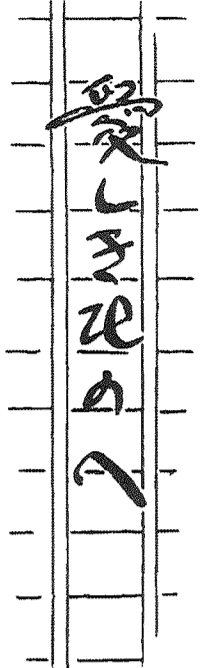
特別企画展を開催

時代をまとう女性たち

昭和館

昭和館では、令和5年3月11日から5月7日にかけて特別企画展「時代をまとう女性たち」を開催する。この展覧会では、女性の服装に焦点を当てる。和装から洋装へ、家庭裁縫から既製服へと、洋装文化の流入や女性の社会的地位の変化など昭和の世相とともに移り変わっていく女性の服装について紹介する。

東京都の九段下にある昭和館では特別企画展「時代をまとう女性たち」が開催される。この企画展では、女性の服装に焦点を当て、昭和の世相とともに変化した女性の服装について紹介する。展示は、大正末期から昭和初期にかけて都市部における洋装文化の受容をプロログとして、時系列で女性の服装を紹介する三章構成になっている。「I. 戦時下の女性と



国家に御奉仕

海軍二等兵曹 内田 耕治
昭和十八年十二月五日
マニラ群島方面にて戦死
神奈川県高座郡茅ヶ崎町出身二十三歳

私事 大東亜戦に参加致し、西に東に敵米英撃滅の為、国家に御奉公致して参りました。微傷一つだに受けず、今に至りました。之も皆々様の御蔭と深謝致して居ります。御両親親及び弟妹達、入団前は色々とお慰めな事を言ひ、御迷惑を御かけした事を御許し下さい。皆々様御健勝で御暮らして下さい。国家の為、私は喜んで母の許に参ります。

内田 耕治

家内御一同様

【令和5年2月靖国神社頭掲示】

愛しきものへ



「II. 洋装文化の流入」では、物資不足や洋裁ブーム、進駐軍の駐留によるアメリカンスタイルの流行など、占領期の社会状況を背景に女性の服装が紹介される。女性たちにとって洋装が身近になっていく過程が展示される。

「III. 大衆化の時代へ」では、国際社会への復帰や高度経済成長に伴った生活の改善、父の戦没地を慰霊巡拝に訪れたことなどを語った。自身が6歳の時に戦死した父との唯一の楽しい思い出として結膜炎に患ったとき、自転車の後ろに乗せられて目医者へ連れて行かれ、一緒に渡り船に乗ったこと話した。戦死した父に代わり一日中働いて子供たちを育ててくれた母が亡くなり、遺品を整理していた時に、戦地から届いた父からのハガキを見つけた。ただただ残してきた家族のことを心配するこ

語り部の会を実施

徳島県遺族会で

徳島県遺族会が運営している「徳島県戦没者記念館—あしたへ—」では戦争体験を語り継ぐ語り部事業を定期的に実施しているが、今回小学校の総合学習の時間に戦没者遺族の労苦や戦地への慰霊巡拝などについて話をしてもらいたいという依頼があり、県遺族会は語り部講師として清水藤子さんを勝浦町立生比奈小学校へ派遣した。清水さんは父親がミヤンマーで戦死している戦没者の遺児で、「父からの便り」と題して、亡き父への思い、戦中戦後の

遺族の参加者募集

沖縄平和祈願慰霊大行進

日本遺族会は、6月23日に実施予定の「沖縄平和祈願慰霊大行進」への参加者を募集している。この事業の目的は、先の大戦で多くの尊い命が失われた沖縄戦を振り返り、砲弾降りしきる中、苦難の撤退を余儀なくされた戦没者が辿った道を行進し、平和を祈願することである。昨年も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で慰霊行進は中止されたが、昭和37年から毎年続けてきたこの平和運動を途絶えさせないよう、共催の沖縄県遺族連合会とも感染防止対策等を検討し、今年の実施に向け準備を進めている。参加申込については、



摩文仁の丘に向かって行進する参加者
= 令和元年度沖縄平和祈願慰霊大行進

なお、コロナ感染状況によっては開催中止となる場合がありますので、ご承知をお願いいたします。

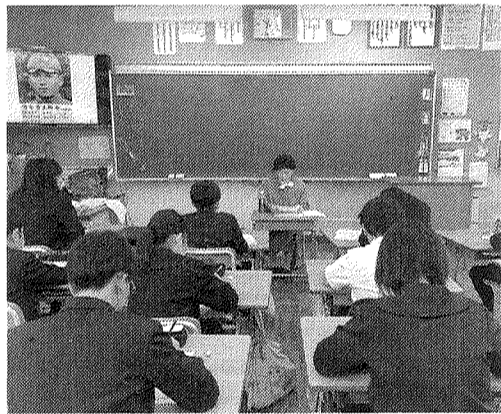
ミヤンマー小学校 修繕募金のお礼

ミヤンマー小学校修繕募金にご賛同いただいた左記の方々に対し、心よりお礼申し上げます。なお、都道府県名にと

ミヤンマー(旧ビルマ) 小学校修繕募金のお礼

日本遺族会では、先の大戦で戦域となったミヤンマー(旧ビルマ)のヤンゴン、アキヤブ、ベグーに、三校の小学校を建設・竣工し、平成12年から14年にかけて寄贈しているが、竣工から20数年が経過し、校舎等も老朽化が進んでいることから、この度修繕費用を募ることとした。関係者遺族をはじめ、全国遺族の皆様からの支援をお願いしたい。

銀行名：三井住友銀行 神田支店
口座番号：当座預金 1015126
口座名：一般財団法人 日本遺族会
=ザイ) ニホンイゾクカイ



小学生に戦争体験を話す語り部講師の清水藤子さんは徳島県

地方だより

- 各支部遺族会で、実施された大会等は次の通り。
- 茨城県 12月6日 一般財団法人三重県遺族会新年初会議(46人)
- 三重県 1月12日 遺族会及び英霊にこたえる会福島県本部合同研修会(51人)
- 徳島県 12月20日 令和4年度長崎県連合遺族会研修会(160人)
- 福岡県 12月11日 静岡県遺族会創立75周年記念大会(600人)
- 静岡県 1月19日 静岡県遺族会創立75周年記念式典(207人)
- 京都府 1月27日 京都市遺族会連合会結成70周年記念大会(200人)

「九段短歌」

九段短歌は新しい選者が決定するまでの間、休載とさせていただきます。